

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290700115		
法人名	社会福祉法人 水澄み会		
事業所名	グループホーム ゆうな むつみや		
所在地	島根県浜田市三隅町河内465番地3		
自己評価作成日	令和4年2月21日	評価結果市町村受理日	令和4年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江上市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和4年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様一人一人の気持ちに沿って日常生活に満足感が得られるように支援している。行事食を提供し季節の節目を大事にして頂いている。日々の生活の中で、食前体操、散歩等を行い運動機能を維持できるように支援している。各利用者様、残存能力を活かして頂く様、自身で行える事は行って頂き、不十分な部分を支援するようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の自然豊かな地域ではあるが、川が近く過去には大水害を経験しており、平坦な場所のため毎年のように水害の危険地域となっている。そのため地域全体で防災意識が高く、コロナ禍でも充実した訓練が行われている。昨年秋には施設内でコロナ感染者が発生し入院したため、防護服を着てのケアも経験しており、この数年のコロナ対応の大変さが伺えたが、管理者は経験豊富で職員の信頼も篤く、新規採用の職員も含めチームワークの良さで乗り切ったように感じられた。以前から認知症に加え精神疾患のある方の受け入れを行っているため、入居者同士のいざこざ等、対応の難しさも感じられるが、母体となるグループは規模が大きく職員育成も積極的に行われてきているため、職員個々にレベルアップすることで、より充実した認知症ケアがなされるよう取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は覚えているが、共有は個々に差がある。	グループ全体の理念がありグループホームの理念に繋がっている。頭文字をとった覚えやすいキャッチフレーズもできている。新人職員のフォローアップや中途採用職員研修でも理念に関する話がある。コロナ禍となりリモートで行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で地域との交流は減っている。	集会所の掃除や草刈りには職員が参加。JA職員による施設回りの草刈りのボランティアも行われている。ゴミ袋を折って届ける方があったり、お宮のしめ縄作りに職員が参加するなどコロナ禍で減ってはいるが、関わりを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて活かしているかわからない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市、家族様を招き、話し合いの場を設けている。 コロナ流行時は書類にて報告している。	コロナ感染症流行前は密にならない形で開催していたが、文書開催に切り替えている。市の地域福祉課、民生委員、地域支援員に家族代表の参加で開催。入居者の状況、行事、研修などの報告をし意見交換に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に招き、話し合いの場を設けている。	運営推進会議には毎回地域福祉課より参加があり助言を得ている。生活保護担当課とは手紙でやり取りをし、生活状況や家族との関わりなど報告している。水害防災自治課からは消防訓練への誘いを受けるなど行政といい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		身体拘束防止委員会を定期に開催したり、母体の法人の研修にも参加している。5月には虐待防止を含めて研修を計画している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族様等へ契約についての十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見書を家族様等に郵送し、意見・要望を表す機会を設けている。	年1回家族会を開催していたがコロナ禍で中止。家族アンケートは続けており、結果を公表し業務改善に繋げている。グループホーム便りに加え、日頃の様子も伝え、不定期だが行事等の写真も送り、意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議にて話し合いを行っている。	職員は毎年理念に沿った個人目標を掲げており、半年後と年度末の2回個人面談の機会を設けている。管理者は、新規職員の採用時に期間を区切って話を聞くなど意見が出やすくなるよう気を配っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間について話し合いで作るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	防火管理者研修、認知症対応型サービス事業者研修、認知要介護リーダー研修に参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で現在は行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を聞きながら、要望に沿って安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の意見を聞きながらケアプランに反映させている。(バット枚数、トイレ回数、誘導時間等)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様の意見を聴きながらケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛付や台拭き等を手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限の為、本人様、家族様が安心して頂けるよう、電話にてお話をさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めているがコロナの影響で外部との接触がほほない為難しい。	コロナ感染者が増えており面会は中止しているため、受診の付き添いが家族と関われる限られた機会となっている。図書館で本を借りることや地域の理髪店の方に来てもらうことなどコロナ禍でもできるだけ続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないよう、席替え等を行っている。 また、体操や手作業を共同で行っており、関りが持てる環境を支援できるよう務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中から話しやすい関係を築く努力をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に意向を聞いている。本人答えなければ、家族様、介護支援専門員、介護員で話し合い検討している。	具体的にしたいことを言える方は少なく、今のままがいい、元気で暮らしたいが多く聞かれる。家族からも病気せず元気でいられれば、という意向が多い。手先を動かすことをさせてほしいという意見も多いためプランに繋げるようにしている。	思いの把握に努め、個別援助計画がより充実したものになるよう検討していただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めている。 今までやってこられた馴染の暮らし方(本・新聞等)の提供を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の有する力を把握し、残存能力を活かして頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、御家族様に介護の意向を聞き、意向に沿った介護計画を作成している。	本人に家族関係者が集合した形での担当者会議の開催は難しいため、電話等で話を聞いたことをもとに会議を行い、了解を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録を行っており、申し送りの際に共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応し、本人にあった支援やサービスをに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響で地域との関わりはほとんどない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族様の希望を大切にし、適切な医療を受けられるようにしている。	入所時に今までのかかりつけ医を継続することも施設の協力医に変更することも可能になっている。定期の往診が可能な協力医に変更する方が殆どで、休日、夜間等にも指示が得られるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調に変化があった際には、主治医、家族様に連絡し、必要時受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	支援に取り組んでいる。重度化や終末期になった時は入院される事が多い。	同グループ内に県西部を中心に多くのサービス事業所がある。重度化した場合も状態に合わせて老健や特老への移行がスムーズにできているため、グループホームでの看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は行えていないが、年間計画に盛り込み行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防団の声かけにより地域の防災訓練に参加している。	過去に大水害を経験したり毎年のように水害の危険地域となるため、今年度も住民参加型の訓練に参加している。グループホーム内でも消火器や通報の訓練を行い、備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	きちんと名字で呼び、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	認知症に加え、精神疾患のある方が多く他者との関係性がうまく保てず、声が出たり時には喧嘩になる場合も多くある。どのような場合も目上の人という意識を常に持つように職員間で話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	塗り絵や衣類の選択、居室で休まれたり等、自身でやりたい事を選んでもらい支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。整容等、必要時介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきやお茶入れ等、行って頂いている。残食を確認したり、本人様とお話しお好みの物を確認している	食材の買い物がいい外出の機会にもなっていたが、コロナ禍でできないため、職員が週2回、まとめ買いをしている。量が多く時間を要するためかなりの負担になっているが、みんなで調理に関わることがいい刺激となっているため、3食を施設で作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量共に毎日確認している。水分量が足りない方には、ゼリーや紅茶等提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には、声掛けにてして頂き、介助が必用な方には介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望時と定時に声掛けを行いトイレで排泄が出来るように促している。	大半の方が紙パンツにパットを使用。介助のいない方もある。夜間紙おむつでも日中は紙パンツに変えてトイレで排泄できるようにしたり、個々に合わせた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品の提供、食前体操、散歩等を行い自然排便が出来るように促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回入浴を行っている。時間帯や順番は希望があれば浴っている。	やや大きめの家庭浴槽ではあるが、車いすの方で中に入れない場合は、シャワー浴対応としている。入浴嫌いの方には、理由を考え対応を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休みたいと訴えあれば休んで頂いているが、長時間ベッドで過ごさないよう一定時間経てばフロアへ出て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の持病等を調べ、日々の様子を記録し症状に変化あるか確認している。服薬の支援は飲みこぼしが無いよう各利用者様に合った服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや塗り絵、本人様好まれる物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルスの為、家族様や地域の方との接触は中止している。散歩やドライブは人との接触を避けて行えるようにしている。	外出行事は中止のため、普段は施設周辺の散歩をしたり、ひとりずつや少人数でドライブに出かけるようにしている。春には車いすの方も車を借りて、花見に行けるよう計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様から何か購入したいと訴えあれば、家族様に相談し仮払いで購入、又は家族様に郵送して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を家族様に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激が無いように配慮している。 各季節に合った飾り付けをし居心地よく過ごせるようにしている。	生活道路に面しているが交通量は限られ、車の騒音等はなく静か。窓が多くデイルームからは外がよく見え明るい。自然豊かな地域であり、窓からの景色で季節の変化が感じられる。手作業で季節の飾りも作成しており、壁を彩っている。寒い地域でもあり、冬場は温度管理に努めながら、換気に気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が居心地よく過ごせるように、席の位置を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様、家族様に聞き、使いなれたものを持って来ていただいている。	押し入れがあり、大きい物の収納が可能になっている。家から押し車、洋服掛け、3段ボックス等を持ち込まれている。散歩の時とってきた花を窓辺に飾ったり、家族写真や敬老の日のプレゼントが置かれており、くつろげるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の状態を考え、その人に合った安全かつ自立した生活が行えるよう支援している。		